

# 低学年部研究のまとめ（成果と課題）

## 1 研究の概要

今年度低学年部では、2回の授業研究を中心に、朝の会や帰りの会等日常生活の様々な場面で「話す・聞く」に関する指導に取り組んだ。

## 2 重点項目との関連

授業作り（指導法の工夫・改善）

- ・ 豊かな体験を数多く持たせ、話したいという思いが持てるようにした。
- ・ 「独話」「対話」「会話」などの様々な形式を取り入れた「話すこと・聞くこと」に関する言語活動を体験させた。
- ・ 「話すこと・聞くこと」の話題や題材をできるだけ身近なものにした。また、想像性に富んだものも、この時期の児童には有効であった。
- ・ 話し方、聞き方の基本的な技能を身に付けるためのパターンを示した。

（成果）

- ・ 単に「話す・聞く」の活動をするのではなく、具体的な活動を伴う活動（例 1年「おみせやさんごっこ」 2年「あったらいいなこんなもの」）を通して「話す・聞く」が体験できるような教材に取り組んだことから、豊かな活動を展開することができた。
- ・ 子供の興味を引く内容であることは、「話題からそれない」というねらいを達成することにつながった。
- ・ 他教科（生活科や図工）との関連を図ったことで、より充実した内容となった。
- ・ 話し方のパターンを話型として示したことは、話すことに関しての基本的な技能を身に付けるために効果があった。

実践例1) 1年

『すきなものおしえて』

みんなに分かるように話すために、話型を示した。（「です」「ます」「～だからです」など）ふだんの話し言葉と異なる話し方を学ぶことによって、はっきり話すという目的を意識づけることができた。

『みんなにしらせたいこと』

- ・ 夏休みの思い出を発表するために、原稿を作って話すことに取り組んだ。
- ・ 「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成を学習することにより、自分が話したいことがより明確になった。また、原稿をもとに話すことで、自信を持って発表することができた。
- ・ 質問の仕方を知り、質問に対する答え方も学習した。発表の内容からそれないような質問を意識させることにより、集中して聞く態度も養われた。

『おみせやさんごっこをしよう』（研究授業）

- ・ 生活科や図工と効果的に関連づけることにより、「ものの名前」「売り買いの言葉」にとどまらない総合的な学習が展開できた。

### 『どうぶつのあかちゃん』

- ・興味を持った動物について調べる学習を取り入れた。図鑑などをもとにワークシートにまとめ、それを発表した。調べ学習は初めての経験だったが、図鑑の見方なども学習することができて、子どもたちは意欲的に取り組んだ。
- ・発表に際しては、聞き手からの質問タイムも取り入れた。ワークシートに書いていないことでも、自分が調べたことをもとに答えることができた。また、他の児童から「それについて知っていること」の紹介もあり、発表の内容が深まった。

### 『わたしは何でしょう』

- ・ヒントを2つ提示して、クイズ形式による発表会を行った。質問と、それに対する応答を通じて、答えを導き出す学習は初めてだったが、児童の興味を引くクイズ形式だったため、どの子も意欲的に参加した。
- ・質疑応答を充実させるために、クラスを4つのグループに分け、グループの中で発表者・回答者の役割を交代しながら演じさせた。

### 実践例2) 2年

#### ・「ともこさんはどこかな」(2年)

「ウォーリーをさがせ」のゲームをしているように楽しんだ。しっかり聞いていないと、挿絵の中から迷子を見つけ出すことができないので、聞き方の基本を学ぶことができた。

#### ・「あったらいいな こんなもの」(2年)

誰もが知っているドラえものの道具から入るこの単元は、子どもの興味をぐんと引きつけるものであった。二人で行う「会話」を初めて経験した。

#### ・「何に見えるかな」(2年)

紙をちぎって作った形から、イメージをふくらませて何に見えるかを話し合う「何に見えるかなゲーム」をグループで行った。(会話) ゲーム的な要素を取り入れた話し合いは、活発に楽しく行われた。

### (課題)

- ・優れた教材を発掘することが大事である。

### 伝え合う力を高めるための系統的な取り組み

- ・全体指導計画

### (成果)

- ・「基礎・基本系統表」に基づいて系統性を意識しながら取り組んだことは、ある程度の成果を上げることができた。
- ・子供の姿を見ると、「話す・聞く」活動の回数を重ねたことで「話すこと」に大分慣れてきた。
- ・全体指導計画を作成したことは、たてや横のつながりが分かり、指導に役立った。

実践例) 朝の会におけるスピーチ(1年)

- ・ 第1段階・・・日直が自由に話す
- ・ 第2段階・・・スピーチの内容について質問を受け、それに対して答える
- ・ 第3段階・・・前日の日直が原稿を用意して話す

(課題)

- ・ 低学年の子供たちは、発達段階に個人差が大きいので、どの子にも十分な力を付けるところまでは達していない。すべての子供が到達するのはまだ無理があるようだ。

個に応じた指導

- ・ 「話すこと・聞くこと」に関する一人ひとりの実態について把握し、個別に声をかけたり、適切な支援を行ったりした。

(成果)

- ・ 授業の中で準備した「おたすけカード」の活用は効果的であった。
- ・ 発表などでは、事前に練習をしたり、教師が声がけをしたりしたので、子供は自信を持って発表会に臨むことができた。

一人ひとりを生かす評価の工夫

- ・ 評価カード等を工夫して、学習過程の中で自己評価や相互評価を取り入れた。

(成果)

- ・ 学習のまとめの段階で感想を話す際、友達の良い点を見つけて話すなど、低学年なりに相互評価を行う姿が見られた。

(課題)

- ・ 子供の良さを見つけられるような「評価カード」を工夫していきたい。
- ・ 「評価カード」だけではないいろいろな形での評価(子供による自己評価や相互評価、教師による評価)を工夫していきたい。
- ・ 「評価カード」の活用では、評価の観点を示して、か×を付けるだけの簡単なものでも、積み上げていくことが大切である。

児童の望ましい学習習慣の形成

- ・ いろいろな学習場面で、「話すこと・聞くこと」の基本的なことが身に付くように、繰り返し指導した。

(成果)

- ・ 繰り返しの指導は、やはり効果的であった。

### 3 次年度の方向性について

- ・ 今年度の研究により成果があった点について、最低限のものを更に継続していくことが大切である。
- ・ 学習を通して身に付いた「話す・聞く」力を、日常生活の中での伝え合う力へとつなげるためにはどのようにしたらよいのか。どう高めていくのかを探していきたい。